

名薬

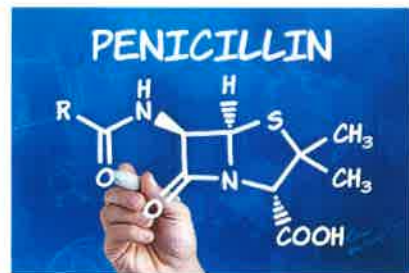
嫌われがちなカビですが、時には名薬も生みます。青カビ由来の抗生物質ペニシリンが筆頭でしょう。発見者のフレミングはノーベル賞に輝いている。難しかった量産を実現した米ファイザーは、先の大戦の戦傷兵治療で圧倒的シェアを占め、今に輝く巨大製薬企業への足がかりとなりました。

日本の第一三共も祖業はカビに関わる。19世紀末、高峰譲吉博士がカビの一種の麹菌から消化酵素のタカジアスターゼを米国で発明します。日本での発売を担ったのが前身の「三共商店」でした。胃弱の漱石も使ったとされるこの薬、粉末状で扱いやすく世界中でヒットしました。今も胃腸薬の成分としてバリバリの現役です。

広く創薬の可能性が眠るそんな微生物の世界で、何らかの異変が起きたのであろうか。小林製薬の「紅麹」をめぐる問題です。因果関係が疑われる死者も出て、影響は日毎拡大し続けている。様々に効能をうたうサプリが巷にあふれる時代です。突然「有害だったかも」と言われても、戸惑ってしまう人は多くいます。東京理科大学教授を務めた薬学者の辰野高司氏によれば、人体への害が疑われるものの、調べても詳細を把握できないカビも多いという。「カビが作る毒」

画期的成果を目指しつつ、地道にリスクも潰していくのが研究開発の基本だという。商品を世に出す以上「未知でした」では済まないと思う。早く被害を食い止まることを願います。

鎌野



花粉症

花粉症になって25年ぐらい経ちますが、この春の時期はだいたいゴールデンウィーク明けに、症状が治まります。長い付き合いなので、今では1日1回、寝る前に薬を飲めば大丈夫なのですが、4月20日から25日の今現在、いつになく辛い症状です。鼻が詰まり、口で呼吸しているので、朝起きると口の中が乾燥していて、喉まで痛い上に一日中、片頭痛のような頭痛というか、頭を常に何かに押えられている様な感覚です。目はしょぼしょぼするし痒く、鼻は鼻水が止まりません。眼球を取り出して洗いたいし、鼻に高压洗浄機のノズルを突っ込んで洗いたくなります。仕事に集中できないし、お酒も飲むと薬が効かなくなるので、飲めません。今の時期は檜の花粉なので、杉の花粉より粒が大きく、症状も酷くなるのだというのは分かっていますが、箱根側の山の杉・檜を総て伐採して貰いたいと願う、今日この頃です。もう既に育ちすぎて、伐採に適した時期を過ぎてますからー！

私事ですが、三男の茂樹がこの春、何とか大学を卒業し、時之栖さんへ就職することが出来ました。ただいま研修中で、あちこち施設へ行っておりますが、いずれは配属が決まり、どこかでお目にかかることがあるかもしれません。どうか、よろしくお願ひします。

長男の正樹、次男の立樹は当社で働いております。今年、還暦を迎えて3人の息子も社会人となり、人としての役割を少し果たすことが出来たのではないかと感じております。

英樹



配り

第
299
便

勝亦製材駿河鉄骨株

住まい塾御殿場教室
TEL (0550) 87-0048
FAX (0550) 87-1237
〒412-0035 静岡県市中山518番地

金色の穂波なびかす大野原宙に浮かべる後の月かな

ねがみともみ



誕生日次男夫婦は甘酒を元気でいてねと優しいもてなし

林 なをみ



落ち椿ひた紅にあざとけれ西方浄土斯くやあるらん

勝亦 りつ子



君の名は

盆の窪、膈、人中窩、軟口蓋、ダーウィン結節、母趾球

これら、なんの事だかお判りになりますか？この原稿を読んでいるほとんどの方は、これらをお持ちだと思います。実は僕も持っています。持っているというかあるんですね。

読み方はそれぞれ「ぼんのくぼ」「ひかがみ」「じんちゅうか」「なんこうがい」「だーういんけっせつ」「ぼしきゅう」です。これら実はすべてヒトの身体の部位の呼称なんです。自分の身体の部位なのにその呼び名が判らない事があるなんて、ちょっと悔しくないですか？

盆の窪はうなじの中央のくぼんだところ。膈は膝の裏のくぼみ。人中窩は鼻と上唇の間の溝。軟口蓋は口の中、上あごの奥の方。ダーウィン結節は耳の外縁部にときに見られる鈍い突起。母趾球は足の親指の付け根のふくらみ。ちなみに手の親指の根元のふくらみは母指球と言うそうです。

えーっと、それでなんでこんな話になったんだっけな・・・？そうだそうだ、アタクシ、只今絶賛花粉症発症中でございまして、体中が痒いのです。特に目と鼻、そして口の中。先ほど口の中の上の部分に猛烈にムズムズしましてね、ムズムズ通り越して痒くなって、そう言えばここってなんて呼んでたっけな？とふと調べて検索してみたんですね。じゃあ、他のこの部分は？ここは？って普段意識しない部分の呼称をいろいろと検索してみたのでした。調べて面白いですよね～。こうしてまた無駄な知識が増えていくのですね。そうしているうちに痒みも治まりました。

では問題です。手のくるぶしの様な骨のどっぴりの部分、ここは正式になんというのでしょうか？



柳田敏和

二十四節気



短歌や俳句を作っていると、知らない言葉がたくさんあることに気づくとともに、きれいな言葉だなあと感じるものが、しばしばあります。1年を春夏秋冬の4つの季節に分け、さらにそれぞれを6つに分けた

“二十四節気”（にじゅうしせつき）。◆春の①立春から始まり、②雨水(うすい)：2月19日頃。③啓蟄(けいちつ)：3月5日頃。「啓蟄はよく耳にします」④春分(春分)：3月21日ごろ⑤清明(せいめい)：4月5日ごろこの清明、清浄明潔ということばを略したもので、全てのものが清らかで生き生きしていると言う意味。様々な花が咲き、木々は生命力にあふれ、生き物は元気よく動き回る時期です。いい言葉ですね。

⑥穀雨(こくう)：4/20頃。まさにいま現在、百穀春雨(ひゃっこくはるさめ)雨降って百穀を潤す。ということばからだそう、柔らかく暖かな雨が振り田畑を潤します。種まきにもってこいの季節。これもまたいい言葉。

◆夏：⑦立夏(りっか)：5/5頃⑧小満(しょうまん)：5/21頃⑨芒種(ぼうしゅ)：6/6頃⑩夏至(げし)：6/21頃⑪小暑(しょうしょ)：7/7頃⑫大暑(たいしょ)：7/23頃◆秋：⑬立秋(りっしゅう)：8/8頃⑭処暑(しょしょ)：8/23頃⑮白露(はくろ)：9/8頃⑯秋分(しゅうぶん)：9/23頃⑰寒露(かんろ)：10/8頃⑱霜降(そうこう)：10/24頃

◆冬：⑲立冬(りっとう)：11/7頃⑳小雪(しょうせつ)：11/22頃㉑大雪(たいせつ)：12/7頃㉒冬至(とうじ)：12/21頃㉓小寒(しょうかん)：1/5頃㉔大寒(だいかん)：1/21頃

二十四節気となります。季節の移り変わりを言葉、文字にする、豊かな感性だと思います。

私には馴染のない言葉があり、へえ～って感じで、検索します。ネットで検索しますが、これを分厚い紙の辞書で調べるのもなかなか良いものだと思ってしまうのは、年齢でしょうか？季節を感じながら、文章を考えるのも頭の体操です。最近は季節が穏やかに過ぎないのが恐ろしいですけど。

兼題：後の月(のちのつき)十三夜の別名 “後の月欠けの余白に四分音符”

ねがみ

花粉症と黄砂

4/20頃から花粉症の症状が辛い。頭痛や止めどない鼻水、喉の痛みと咳に風邪かと思ったが熱もなく頭皮、目や耳、服から出ている皮膚が痒い。昨年もそういえばこんな感じで薬を変えてもらったっけ。おそらく黄砂の飛散のニュースを耳にする頃に酷くなるので、黄砂、PM2.5にもアレルギーがあるのか、それともアジュバント効果によりアレルギーが悪化するのか。

黄砂自体は、1266年ごろの文献にも記録があるそうなので昔から見られる気象現象ですが、近年は中国大陸で発生した大気汚染物質のPM2.5が黄砂と一緒に偏西風によって花粉症シーズンに日本にやってきます。花粉だけでも厄介なのにアレルギーが重なり症状もパワーアップするという最悪な状況です。しかもPM2.5は金属物質なので鼻水やくしゃみはもちろん、咳や金属アレルギーによる皮膚炎も起こります。昨日薬を変えていただき体調がかなり改善されましたがマスク無しで春を楽しめるようになりたいものです。

祥子

